



「桜吹雪」模様の卵をよく産む 新たな「卵用名古屋コーチン」を開発

開発の背景・ニーズ

名古屋コーチンの卵は卵黄の色が濃く、また、卵殻の色は一般の白玉卵や赤玉卵とは異なり、桜色で白い斑点が桜吹雪の様に現れる特徴があります。また、味が濃厚で美味しく、生卵で食べるととろりとした粘りある食感が楽しめます。

名古屋コーチンの卵に人気が集まり、生産量が増えるにつれて、生産者からは産卵能力をさらに高め、卵の特徴をもっと強化してほしいという要望が出されるようになりました。

そこで、2001年度より10年間にわたる改良を進め、このたび、これらの特徴を更に高めた新「卵用名古屋コーチン」を完成させました。

成果の内容



新「卵用名古屋コーチン」



「桜吹雪」模様の卵を多く産む

新「卵用名古屋コーチン」の特長

- 卵を産み始める心化後180日から産卵ピークの210日までの間では、卵の平均の重さが約1～2g増加しました(商品価値の高い52g以上の卵の割合は同期間で約20ポイント増加)
- 1羽あたりの産卵数は、心化後181日から450日までの270日間の産卵数が約5%増加しました(186個→195個)
- 産卵の全期間を通して、鮮やかな桜色の卵を産むようになりました
- 桜色の殻に「桜吹雪」のように白い斑点が多く現れるようになり、その出現率は約19ポイント上昇しました(59.2%→77.8%)

愛知県農業への貢献

開発された新「卵用名古屋コーチン」は2013年春からヒナの供給が開始されます。その卵は味が濃厚で、鮮やかな桜色の卵殻色と卵殻の白い斑点という視覚的な特徴もあることから、競争力のある愛知ブランドの卵として流通量の拡大が期待されます。